

松本市地域づくり推進交付金実績報告書

令和8年3月31日

（あて先）松本市長

（申請者） 里山辺地区まちづくり協議会

1 交付決定額

I	金 750,000 円
---	-------------

2 本年度実績の報告

① 本年度の交付金事業の報告

① 事業名：里山辺わいわいファーム事業				
実施主体	里山辺公民館・里山辺地区まちづくり協議会			
実施日（期間）	令和7年4月～9月			
実施場所	山辺小学校東側の圃場（田・畑）、里山辺公民館			
事業概要	・里山辺地区の農業後継者及びボランティアの指導のもと、農業体験と食育を学ぶ体験型学習を実施し、里山辺地区に住む小学生以下の親子、15組が参加した。 ・7アールの水田で米作り、2アールの畑でじゃがいもや人参等の栽培・収穫作業を行った。 ・9月に大収穫祭を開催し、収穫した米や野菜を使ったカレーを作って食した。			
地域づくりの成果・効果	・地域活動に参加する機会の少ない子どもと保護者が、地域の人々と一緒に農作業等を行うことによって交流を深めるとともに、地域活動に積極的に参加する大切さを学習することができた。 ・自分達の手で育てた食物の大切さを含め、自給することや安全について学習することができた。 ・作物を育てる過程で、自然の大切さや厳しさを学習することができた。			
課題	・新規の参加者は増えたが、毎回参加できる家庭が限られている。途中から参加しない家庭もあり、気軽に参加できるような工夫が必要である。			
決算額	a + b + c	財 源 内 訳		
		a	b	c
	180,000円	85,793円	94,207円	円

a：本年度の交付金額のうち、この事業に充当した額

b：前年度の交付金の繰越額のうち、この事業に充当した額

c：この事業に充当したその他の財源の額

② 事業名：里山辺地区あいさつ運動推進事業

実施主体	里山辺地区まちづくり協議会
実施日（期間）	令和7年4月～令和8年3月
実施場所	里山辺公民館

事業概要	・山辺小5年生の「あいさつ運動宣言」、里山辺保育園児や、山辺小児童、山辺中学生が作成した絵を提供してもらい、「令和8年度あいさつ運動カレンダー」を作製。地区内全戸に配布した。 ・単位町会において、役員等が中心となってあいさつの推進に努めた。			
地域づくりの成果・効果	カレンダーに、自分のあいさつ目標と実践結果を書き込めるチェックシートをつけることにより、あいさつ運動に対する意識づけができた。			
課題	あいさつ運動は成果が目に見えにくいため、今後の運動の展開についてより一層検討する必要がある。			
決算額	a + b + c	財 源 内 訳		
		a	b	c
	183,000円	163,000円	円	20,000円

③ 事業名：里山辺地区文化財等保存継承事業				
実施主体	里山辺地区まちづくり協議会・里山辺公民館			
実施日（期間）	令和7年4月～令和8年3月			
実施場所	里山辺地区全体			
事業概要	昭和17年につくられ、地区で歌い継がれてきた「山辺のうた」の歌碑を作製し、里山辺公民館駐車場に設置した。			
地域づくりの成果・効果	公共施設敷地内に歌碑を設置したことによって「山辺のうた」の周知と、次世代への継承といった役割が期待できる。			
課題	歌を継承していくためには、歌碑を設置するだけでなく、地区の行事で歌う機会を作るといった環境が必要と思われる。			
決算額	a + b + c	財 源 内 訳		
		a	b	c
	268,840円	238,840円	円	30,000円

④ 事業名：里山辺地区まちづくり事業				
実施主体	里山辺地区まちづくり協議会・松本市農業技術者連絡協議会			
実施日（期間）	令和7年4月～令和8年3月			
実施場所	里山辺地区全体、里山辺公民館			
事業概要	・連帯意識の造成を図るため、情報誌『さと通信』を定期的に全戸へ配布した。 ・古墳や遺跡が数多く存在する山辺の歴史について、つながろう会主催で今年度は「林城を巡るトライアングル」について講演会を開催した。 ・町内公民館前広場等を利用して、散歩途中でも気軽に集える青空サロン「さとカフェ」を開催した。 ・「シカの被害対策を考えるシンポジウム」を開催			
地域づくりの成果・効果	つながろう会主催の講演会では大勢の住民の参加があり、小笠原氏の居城である「林城」の総合的防御はどうであったか等、林の村内堤防についての話を聴くことができた。 ・青空サロン「さとカフェ」では、町内公民館や広場等を会場にすることで、散歩途中などでも気軽に立ち寄っていただき、住民同士のコミュニティづくりの場となった。さらに、閉じこもりがちな高齢者が外出するきっかけになった。 ・シンポジウムは鳥獣害対策の専門家を講師として招き、防護柵の設置管理や			

	個体数管理についてお話いただいた。地方公共団体の関係者や認定管理捕獲技術者とパネルディスカッションを行った。約120名の地域住民の参加があり、鳥獣害への理解を深めていただくことができた。			
課 題	・さとカフェは屋外開催ということもあり、夏・冬季は休止となる。孤立しがちな地区住民へ切れ目のない支援が必要。 ・「つながろう会」が活動をこれからも継続していくために、メンバーがより自発的に行動することが必要と感じる。 ・シカは年間20%増加するため個体数管理が極めて重要。被害は農林業にとどまらず交通事故や生活環境への影響も深刻化している。山際の住民だけでなく市街地の住民も含め地域全体で「自分ごと」として捉え、継続的な対策に取り組む必要がある。			
決 算 額	a + b + c	財 源 内 訳		
		a	b	c
	341,152円	262,367円	円	78,785円

決 算 額 (計) (①+②+③)	A + B + C	財 源 内 訳		
		A	B	C
	972,992円	750,000円	94,207円	128,785円

A：各事業のaの合計額

B：各事業のbの合計額

C：各事業のcの合計額

(2) 本年度の積立実績の報告

該当なし

(3) 本年度の交付金のうち、翌年度に繰り越す金額の報告

I - A - D	金	0円
-----------	---	----

[参考]繰越上限額 = $I \times 2 / 10$